

教業防災まちづくりニュース

2

2018.9

■9月9日(日)に「第2回防災まちづくり学習会」を開催しました

第2回防災まちづくり学習会では、平成24年8月に発生した宇治市志津川地区の土砂災害に関する教訓について、梅原孝さんに講演して頂きました。この土砂災害ではお二人の方が亡くなられ、災害発生以前からの集落の取組、災害発生時の具体的な状況、そしてその後の集落の取組について学び、教業学区でも7月の集中豪雨、台風21号の猛威を体験しましたが、改めて「想定内の災害」への心構えを再認識しました。【講演録は次頁参照】



その後、教業学区で5月から取組を開始した防災まちづくり調査の現時点の状況報告があり、昭和初期と現在の地図を比較して教業学区のまちの変遷とともに、各町内に古くからの路地が多く残るまちの現状を確認しました。

その後の意見交換ではハザードマップのこと、7月の集中豪雨時の避難準備の情報伝達などの課題提起があり、今後教業学区で町内会を基本とした防災まちづくりの検証を進めることを確認しました。

■集中豪雨、台風、大地震と大災害が頻発しており、もう想定外のことではなくなりました

6月17日に第1回防災まちづくり学習会を開催して以降、6月18日に大阪北部地震、7月に西日本集中豪雨、9月5日に台風21号の猛威、9月7日に北海道地震と大災害が頻発しています。もう想定外の災害ではなく、今起きるかもしれない「想定内」と認識することが大切です。



■7月6日15時5分に教業学区に避難準備が発令されました

7月の集中豪雨の際、教業学区に対して「鴨川・高野川の水害の恐れで、6日15時5分に『避難準備・高齢者等避難開始』の避難勧告」が発令されました（市広報資料）。自主防災会では5日22時34分に中京区防災担当から避難所開設の指示があり、23時に開設しました。

避難準備の指示は多くの方が「避難の準備してください」と受け止めているようですが、基本は「■避難に時間を要するひと（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）と支援者は避難を開始しましょう。」

■ その他のひとは、避難の準備を整えましょう！ ということです。

今回の学習会参加者アンケート調査結果では 29 人のうち、23 人の方は避難準備発令を知っていたとの回答ですが、実際の避難者はゼロでした。今後、避難勧告等の連絡方法について再確認が必要です。

「避難準備・高齢者 等 避難開始」

× 要配慮者のみ対象
○ 危険区域内は全員

誤解で危機感薄れ

■教業学区の防災まちづくりの視点から見たまちの特性分析（学習会の報告）

昭和2年と現在の地図を比較しても、大きな土地の変化が比較的少ないとわかります

一教業学区は明治以降のまちの基本構造が今も色濃く残るまちです

◆その結果として

- ①主要な道路で幅員4m未満の道路が見られます
 - 4m未満一姉小路通（猪熊通～神泉苑通間）、黒門通（姉小路通以北）
- ②昔のままの路地が多く残ります
 - 行き止まり路地が多く、二方向避難が困難な敷地が多く見られます
- ③路地の入口部がトンネル形式が多く見られます
 - 路地奥での防災面の課題が大きいと言えます



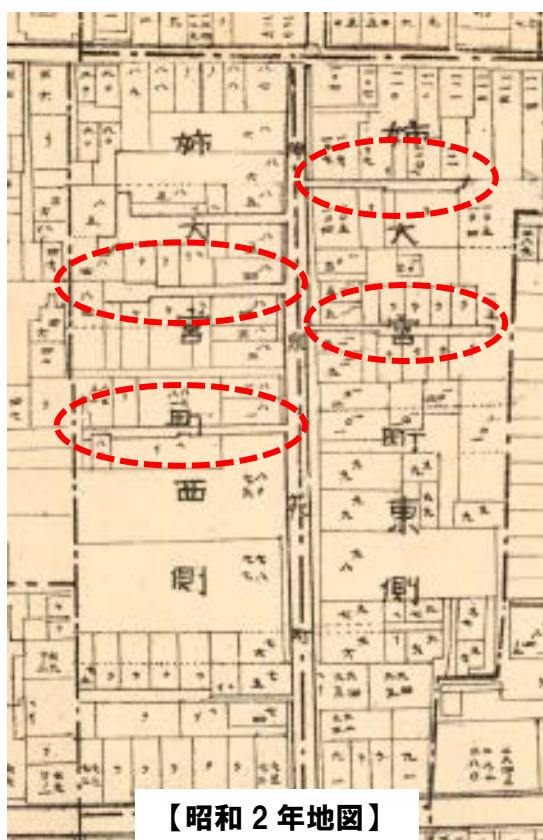
（写真：行き止まり路地）



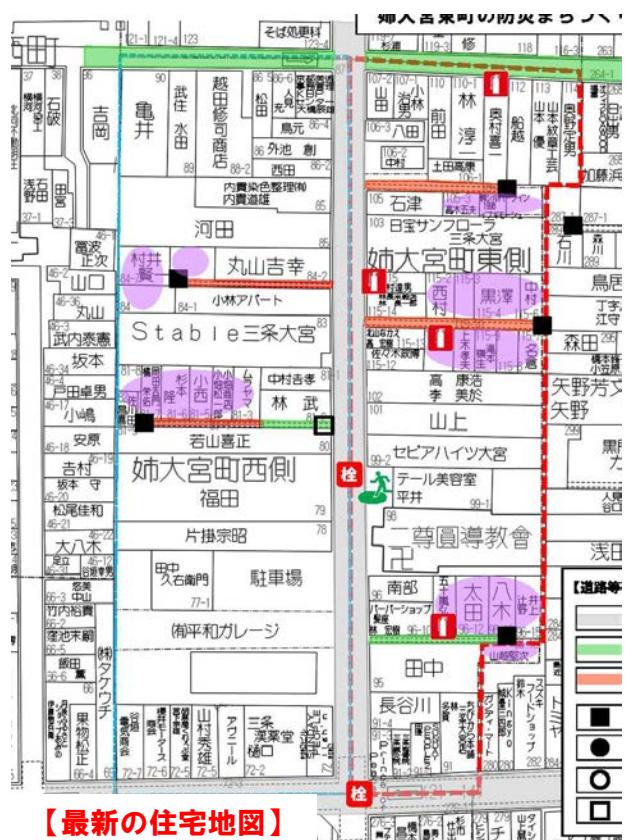
（写真：路地入口部がトンネルの路地）

地図比較によるまちの変化

一昭和2年と現在との比較です（参考事例一姉大宮町東側・西側）



【昭和2年地図】



【最新の住宅地図】

【編集後記】これからは町内会を基本単位に防災面での点検を進めます。今一度みなさんの身の回りのまちの状況を確認して頂き、町内会でまちの防災課題について確認、共有してください。